

欧州市場に落ち着きが見えてきた。2012年の危機のさなかには30%を超え、水準まで上昇したギリシャ国債（10年もの）の利回りは8%まで下がってきた。当時7%近い水準まで上昇したイタリアやスペインの国債利回りも、現在は3%台で推移している。12年の年初には1ユーロ100円を切る超ユーロ安になったが、現在は140円台となっている。こうした数字を見ると、欧州危機は去ったように見える。

ただ、実体経済を見ると状況は厳しい。ギリシャ政府は14年度は7年ぶりのプラス成長になると予想しているが、ギリシャの失業率

## 伊藤元重の

# ニュースな見方



は27%台という高い水準にある。スペインは26%台、イタリアは12%台と、いずれも失業率の改善は見られない。いったい今の欧州の状況をどう判断したらよいのだろうか。

そこをポイントとなるのは、なぜ欧州危機が起きたのか、そして当時と状況は変わっているのか、ということだ。

## 苦境続く経済警戒必要

欧州通貨危機は共通通貨ユーロの導入と深い関係にある。通貨統合の中で、ドイツなど北の国とギリシャ

はギリシャなどの国で財政運営にひずみが生じたことだ。それでもギリシャ政府は資金調達が可能であった。リーマン・ショック前

は中央銀行が対応するのは残念ながらギリシャやス

は中央銀行が対応するのは残念ながらギリシャやス

は中央銀行が対応するのは残念ながらギリシャやス

## 欧州危機は去ったのか

は中央銀行が対応するのは残念ながらギリシャやス

は中央銀行が対応するのは残念ながらギリシャやス

は中央銀行が対応するのは残念ながらギリシャやス

\*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。